

事業概要

補助事業番号 21-1-003

補助事業名 平成21年度 サイクルスポーツ施設の整備等補助事業

補助事業者名 財団法人 自転車センター

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

スポーツを通じて国民の心身の健全な育成に資するため、サイクルスポーツを中心とした体育施設を整備してサイクルスポーツの普及奨励を図り、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

1. 施設建設整備工事

(1) 船型健康促進遊具設置工事

今春よりメタボ検診が導入されるなど、国民の健康意識が高まっている状況下で当センターの利用も遊びの要素だけで来場していた傾向が、ここ数年来は遊びの中での健康づくりを意識した利用に大きく変化してきており、我々の目指す方向に進んでおります。

当施設もここ数年来は、施設のバリアフリー化・休憩場所の増設・緑化・安全対策を進めながら老朽化した施設のスクラップ&ビルドを実施したことで、アンケート調査や来場者の声を聞きますと大変好評を得ています。

また施設の要所要所には無料で遊べる施設を配置し、自転車に乗れないお子さんや高齢者の対策も併せて実施してまいりました。

本事業は、これらの要素を取り入れた施設で、未来がある子どもたちがのびのびと成長するお手伝いをしながら、高齢者でも利用できる健康促進の為の施設として計画いたしました。

具体的には、アスレチックと勉強をしながら体力づくりできる要素を取り入れた施設で、当センター内の幹線通路に面し、休憩エリアと隣接していることで子どもや高齢者が利用しやすい遊具の設置工事を実施いたしました。

(工事内容)

○鉄骨工事	一式
○安全柵設置工事	一式
○造形工事	一式
○健康遊具設置工事	一式

(2) 野外活動施設多目的施設建設工事

この野外活動施設はサイクリングコース・変わり種自転車広場と共に昭和 49 年の開設より営業してまいりました。炊事用具関係の貸出も充実していることから、事前準備の手間を省き、初心者の方にも安心してご利用いただけると、大変好評を得ております。

また、共同生活を体験できるとあって、中学校や高等学校の校外学習に、またサイクリングコースやプール等の施設と併設していることから、体力づくりを目的に多くの子供会やスポーツクラブ等の団体にも利用していただいております。今では不特定多数の方にご活用いただいております。

しかしながら、33 年経過した管理棟は老朽化し、用具貸出所も老朽化により清潔性を保てなくなっております。近年は宿泊施設の老朽化により多機能付きのコテージを建設してまいりましたが、宿泊されている方からはシャワーを利用後くつろげる憩いの場所や、夜間のレクリエーション施設の設置を強く要望されているのが現状です。

このようなことから、本年度は最後の建物として、利用者のニーズに応え人が集まれる管理棟の建設により、憩いの空間の提供、清潔な備品の貸出、また金剛生駒紀泉国定公園内の標高約 300 メートルという立地を活かした天体観測スペースを設置し、快適に利用していただくため本工事を実施いたしました。

(工事内容)

○進入路築造工事	一式
○構造物 解体・取壊し工事	一式
○施設建設工事	一式
○土留擁壁 撤去・新設工事	一式

2. 施設点検安全整備工事

(1) サイクリングコース安全対策整備工事

当センターは昭和 49 年開設以来誰もがサイクルスポーツに親しむことのできる施設づくりを目指し、サイクリングコース・変わり種自転車広場を中心に営業してまいりました。

なかでもサイクリングコースは、全長約 3 km で、自然の中を走行することにより森林浴も楽しめ、健康促進の為、またお子さんの成長を確かめるべく親子で利用されるなど、近年は利用率が 10% 増加するほど大変好評を得ております。

コース途中の橋脚部を数年前から当センター職員にて点検しておりましたが、専門業者による調査を実施したところ、橋脚部の補修よりも舗装面の修復の方が急を要するとの結果が出ました。また、安全柵や安全マットも老朽化により

安全性が低下しており、路面の舗装も経年により表面の油分が抜け、滑りやすい状態になってきており整備が必要となってまいりました。

このようなことから、利用者の安全を確保し、より一層楽しんでいただけるよう凍結抑制の舗装・コースからの転落防止の為にフェンス設置・カーブでのスリップ防止の為に舗装を行う為、本工事を実施いたしました。

(工事内容)

- 橋脚部舗装工事 一式
- コース内スリップ防止舗装工事等 一式
- 転落防止用ネットフェンス工事 一式

(2) 休憩室上水整備工事

当センターは 3 世代で来場される方も増え、シニア層から小さなお子様までファミリー層を中心に幅広い年代の方々にご来場いただいております。

10 年前に利用者の増加とともに休憩室の数が少なすぎる事での対応として、各休憩室内の改修工事を実施いたし、数的にはある程度確保する事ができました。バリアフリー化は必然性を要し、当センターでも車椅子を使用されている方が利用しやすい、スペースに余裕のある休憩室も設置しております。

しかしながら、既存の建物の大きさを変更せず個室の数を増加させた事で一室当たりの面積が狭くなり、ここ数年来は来場者から「休憩室が狭い」という苦情が増加してまいりました。また高齢化社会を迎えた昨今、バリアフリー化だけでなくユニバーサルデザイン化も広く求められるようになり、また一般家屋の欧米化により和式だと利用できない子どもが増えているのも現状です。

このようなことから、現在の休憩室を洋式化し、またそれに合わせてゆったりとした個室スペースにする為本工事を実施いたしました。

(工事内容)

- 正面ゲート上水整備工事 一式
- 三角広場上水整備工事 一式
- プール管理棟 B 2 F 上水整備工事 一式

3. 車両購入

(1) 自転車購入

当センターにおける自転車施設（サイクリングコース・変わり種自転車）の利用は順調に推移し、春・秋の行楽シーズンを中心に、一般来場者をはじめ学校団体・地域子供会・職域団体、さらにはスポーツクラブなどの団体等、幅広く利用されている為、利用者の身長はもとよりニーズに合わせ各種サイズ等を用意する事が要求されます。

当センターでは、各種サイズの自転車を計画的に購入を図り、各メーカーの最新車両をいち早く導入し、不特定多数の利用者に情報発信を行い、また利用後の販売促進にも効果をあげております。

しかしながら、利用頻度に伴い、故障・部品の消耗が激しく、その都度部品の交換や日常の保守点検整備に努めておりますが、5年以上経過すると各部の損傷により各車種の買い替えが必要となってまいります。

また入場者の80%以上が利用し、市町村等公共団体や一般施設のモデルになっている変わり種自転車は、利用頻度も非常に高く各部の消耗・複雑な作りによる故障・新鮮さが要求される乗り物の為、随時入れ替えが必要とされます。

このようなことから、来場者のニーズに応え、またリピーター確保に向け各種の自転車を購入いたしました。

(購入内容)

○サイクリングコース用自転車

(20～26吋・電動アシスト・特殊スポーツ) 65台

○変わり種自転車 50台

4. 普及啓発

(1) 広報活動

・テレビ活動

マスメディアの中でも一般不特定多数を対象に最も影響力があるテレビを活用して、入場者の増員に繋げ、自転車に関して広く普及啓発を図ることを目的に事業を実施いたしました。

また平成21年7月10日は当センターオープン35周年という事もあり、この期を効果的にアピールする事により、自転車の普遍的な楽しさや、感動、自然に優しい事など、自転車について一層の普及啓発を図りました。

実施については、その目的に合わせ、ファミリー層からヤング・熟年層まで幅広いターゲットに対し、放映時期や放送時間、放送局等を十分に考慮した上でのスポットCMの放映、並びに自転車のテーマパークである当センターの魅力と内容を時期に合わせて的確に伝えられるように考慮したCM素材を制作いたしました。

(実施内容)

スポット広告	民放V局及びU局におけるスポットCMの放映
同上フィルム制作	一般フィルム関連及び催事告知等の各時期用フィルムの制作

・雑誌広告

テレビ等に比べ読者層が比較的明確であり、情報量が多く、保存性・回読性の高い雑誌や、広く一般的に情報を発信できる新聞や折り込みチラシ、また広い年齢層に長期間繰り返し情報発信のできる駅構内広告等を利用し、当センターを認知頂き、入場者の増員に繋げ、自転車に関して広く普及啓発を図ることを目的とし事業を実施いたしました。

また、上記テレビ広告にて前述いたしましたことと同様、当センターのオープン35周年を効果的にアピールし、自転車について一層の普及啓発を図り、その都度有効な印刷媒体を調査研究し、臨機応変に対応できるよう考慮し、情報誌等の雑誌や新聞・折り込みチラシ、駅構内等における広告掲載、並びに当センターの魅力と内容を時期に合わせた確に伝えられるように考慮した宣伝素材を制作いたしました。

(実施内容)

雑誌等広告	雑誌や新聞等の印刷媒体における広告の掲載
同上素材制作	季節や広告目的に合わせた広告素材の制作

(2) サイクル活動普及事業

・四車連対抗自転車競技大会

四車連対抗自転車競技大会は、一般市民の自転車競技への理解を深め、選手の競技レベルの向上を目指して、アマチュアの競技団体を構成する実業団・クラブチーム・大学生・高校生からなる各団体の対抗戦形式のトラックレースとして平成5年から実施してきました。

各地で行われるピスト競技大会への参加者が減少傾向にある中、「気軽に参加できる」「出場種目を選べる」「憧れの選手と一緒に走れる」と参加者の立場に立った競技大会は多数の参加者が集まることを証明しました。

さらに、本競技にはプロ選手のオープン参加及び模範競技も同時に行い、双方のコミュニケーションも図っております。

これらの実績成果から四車連競技大会を実施いたしました。

(事業内容)

実施場所	関西サイクルスポーツセンター内ピストバンク
実施内容	自転車競技4団体による対抗戦・自転車競技

・集客イベント

本事業は、広く一般大衆に対して、当財団が運営する自転車のテーマパークである関西サイクルスポーツセンターへの来場意欲を促進し来場者の増員に繋げ、自転車に関して広く普及啓発を図る事を目的とし、年間を通じて最も集客が期待できる7月から8月を中心に実施いたしました。

平成 20 年度に引き続き平成 21 年度もプールイベントをメインに据え、スポーツ施設である当センターのプールの存在を一層一般に認知いただけるよう実施いたしました。

また、スポーツイベントの開催、さらに、小さなお子様向けのイベントの実施や、ヤング層やシニア層にも関心を持っていただける自転車の普及啓発を図る自転車イベントを実施いたしました。

(事業内容)

実施場所	関西サイクルスポーツセンター
実施期間	夏秋期間（7月～11月末）
実施内容	夏期通しイベントの開催 スポットイベントの開催

2. 予想される事業実施効果

1. 施設建設整備工事

福祉・高齢化社会を迎えた昨今、緑あふれるくつろぎのある空間・リラックスできるスペースを来場者に提供し、且つ来場者の健康づくりができる場を提供することにより施設全体のイメージアップにつながりシルバー層、低年齢層の来場者の層が広まり自然の中でのサイクルスポーツをより一層満喫していただけるほか、今後の集客においても不特定多数の来場者を迎えることができると予想いたします。

2. 施設点検安全対策整備工事

当センターは不特定多数の来場者に、健康・やすらぎ・安全を提供しております。35年経過し老朽化しつつある諸設備も、本工事により、その来場者の安全と安心を確保することができ、社会情勢やニーズへの対応また、安全への取り組み姿勢が評価され、口コミによる利用者はもとより当施設に対する認識が高まると予想いたします。

3. 車両購入

常に新しいものへのこだわりを追求し、快適にサイクリングできるよう自転車を導入したことにより、絶えず利用者にインパクトを与えることができ、自転車利用促進に寄与していると確信しております。また、変わった形・動きをテーマに制作する変わり種自転車を導入することにより自転車の楽しさをアピールしております。またメーカーと相談して社会的ニーズを取り込み、安全対策を施し、当センターでの利用でニーズと安全性を立証した自転車を他の変わり種自転車運営施設にも普及させ自転車の快適さ・楽しさ等をアピールし、来場者からのアン

ケートを取り入れることにより、自転車への興味を向上させ、全国的なサイクリング人口の増加と普及につながると予想いたします。

4. 普及啓発

今後、CO2 を排出しない地球環境に優しい自転車、有酸素運動による健康促進等を広くアピールする事により、安定した入場者数を得る事ができると予想されます。さらに自転車の展示会や集客イベントの開催による誘致で、不特定多数の来場者を確保する事で、学校団体・職域団体・地域団体・スポーツ団体などより多くの人々の利用促進に繋がり、自転車の普及活動を行う事で、自転車の利用促進に繋がるものと予想されます。

3. 本事業により作成した印刷物等

四車連対抗自転車競技大会プログラム 300 冊及び表彰状

4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 財団法人 自転車センター（ジテンシャセンター）

住所： 586-0086

大阪府河内長野市天野町 1304

代表者： 理事長 森本 龍男（モリモト タツオ）

担当部署： 総務部（ソウムブ）

担当者名： 永池 摩弥（ナガイケ マヤ）

電話番号： 0721-54-3100

F A X： 0721-54-1717

E-mail： soumu@kcsc.or.jp

U R L： <http://www.kcsc.or.jp/>